自然・環境

国立公園を守る

私達はこのインタビューを通して自然保護官事務所の皆さんの国立公園に対する熱意を感じることができました。

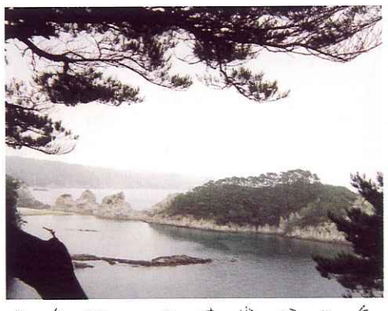
環境省の方は最近、国立公園でのゴミ捨て、植物の盗採など、公園利用のマナーが守られてないことや、それが原因で公園の美しい風景がこわされつつあることをあげ、利用者には大声を出す、風景をこわすような行為植物の盗採など、他の人の迷惑になることはしないでほしいと話しています。

宮古の代表的な観光地、浄土ヶ浜を含む陸中海岸国立公園は宮城県の気仙沼まで百八十km も続く、とても長い公園です。

この公園には年間約六百九十七万人もの人が訪れています。大断崖が続くさまが訪れ観で、海のアルプスと言われています。

私達は事務所の方々の話をきいてすばらしい国立公園の風景を守るためにも、公園利用のマナーを守りたいと感じました。

また、皆さんにもこの風景を見ていただきたいと思いました。



自然というかけがえのないものに少しでも興味をもってもらいたいです。

取材協力／自然保護官事務所

海はおらほの命

宮古の海では、色々な種類の魚や貝類がとれます。その中でも、ワカメとアワビは全国で一位。コンブとサケは全国二位です。なぜ、こんなに魚がいるのかというと、多くの人の支えがあるからです。ボランティアの人達がゴミを拾ったり、重茂地区では、化学洗剤などを使わずに自然や海にやさしい石けんを使ったり洗剤を贈答をしないなどして海を大切にしています。

その他にも山に木を植え山から海へ栄養を流すという活動をしているそうです。そのかいがあって、「海水浴Bの十100選」に"浄土ヶ浜""真崎海岸""女遊戸"が選ばれ、浄土ヶ浜はトップ10にランクインされました。これは宮古、岩手県のほこりです。海が汚れると大切な魚が死んでしまいます。一人一人がゴミ拾いをしたり、木、花を植えたり資源を大切にし、海に汚い水を流さないなどを心がけていきたいです。海を大事にして、ますます海を好きになっていきたいです。どんどん汚すと困るのは私たち人間だからです。

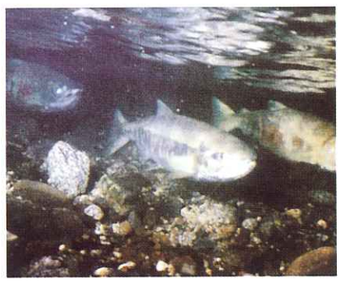
取材協力／県立水産科学館

鮭の街宮古

宮古の鮭は、シロサケと言い、平均の体長は、約六十cm、重さは平均四kg位、最大で体長一m、体重十五kgです。このように鮭がとれるのも、鮭を保護する人々が、日々の努力を怠らずに、頑張っているおかげなのです。

鮭は、ほぼ百%が保護されていて、天然の鮭は一%にも達しません。津軽石鮭繁殖保護組合では、色々な工夫をしています。例えば、自動でえさをあげたり、掃除したり、水をかえたり、便利な機械があります。しかし、まだ苦労があります。例えば、鮭をとるには、県から許可をもらう必要があります。組合の人達は、朝早くから夜遅くまで密漁を防ぐため、監視しています。特に冬場はとても寒いので大変です。そういった努力のおかげで、帰ってきた鮭の数がついに本州一位までのぼりつめました。それに、組合の人達は「宮古の川を宝」だと思っているのでたくさんの苦労も、苦労では、無くなるとも話していました。

この宮古の川が本州一位になったことを誇りに思い大切にしていきたいです。



取材協力／津軽石鮭繁殖保護組合

広げよう EMの輪

環境にやさしいEMについて紹介します。

EM（Effective Microorganisms）は微生物が集まってできています。海に流すと魚が寄ってくるほど高成分です。

EMは抗酸化作用があり、汚水を分解し、水をきれいにする作用があります。そのため下水道の掃除、車のオイルや花壇肥料などで使われています。

EMには多くの効果があり、地球環境に良いのです。

EMインストラクターの工藤さんにEMの存在を皆に知ってもらえることが嬉しいと話していました。

EMはこれから科学、ペット用品、学校の石けんなどに使われていくようです。

私達はEMの使い方や効果を知り、EM石けんを作りました。環境を守るためにも、EMの製品を使用していきたいと感じました。

取材協力／EMインストラクター工藤寿代さん

《EM石鹸の作り方》
① 苛性ソーダーイオンをバケツの中に入れる。
② セラミックパウダー（石にEMをぬって燃やした物）と廃油3.2kgを入れる。
③ EM原液を入れてよくかき交ぜ牛乳パックに入れて3日間寝かせて完成。

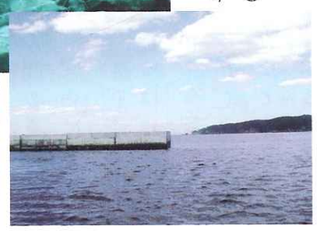
産業

海の漢（おとこ）たち

僕達は、宮古潜建の元請け会社本間組さんが手がけている竜神崎の防波堤工事を見学させてもらいました。それは観光船の発着場所と漁船の陸揚施設や鍬ケ崎地区の船だまりの水面を穏やかにするための防波堤の建設を、行っているお仕事でした。

この工事は、なんと平成29年までかかるそうです。防波堤を造るには、土台の石を海底に並べケーソンとよばれるコンクリートを沈めコンクリートをまぜ流し込むのだそうです。潜水士の方は、軽くて25kg、重くて90kgの潜水服を着て11m～23mまで潜って作業をなさるそうです。実際に船にも乗せていただき、そのお仕事の大変さを実感しました。

海の安全を守るため、僕達が考えていたことよりご苦労を重ねていらっしゃることがわかりました。



★取材協力★本間組　下坪様　田子様